

子安神社

784年（延暦3）に地元の豪族の古墳（子安古墳）をご神体として創建された。

903年（延喜3）に茨城県稲敷郡の「稲田大社」より奇稲田姫命を勧請し「子安大明神」となる。

社伝には、藤原時平の崇敬が篤く古くから安産の守護神として衆人に敬われたが、千葉常胤が1193年（建久4）に奥方の安産祈願を行ったところ無事男子が出産したことを喜び翌年社殿を造営した。この霊験に人々は大いに喜び周辺の集落23ヶ村では盛大な祭を開催したとある。

また1445年（文安2）の馬加康胤夫人の安産伝承にまつわり行われるようになった「三山の七年祭」で、当社は母親役を務める。

当社では大正時代より宮中慶事の際に安産祈願祭を行い、岩田帯として白羽二重一反を宮内庁を通じ献上している。

長胤寺

千葉常胤の三男・武石三郎胤盛の4世孫・長胤が、1259年（正元元年）に館をこの地に移し、1262年（弘長2）には真言宗の寺院に改め自らの菩提寺とした。

1545年（天文14）に、時の当主が“上総七里法華”に帰依し日蓮宗に改宗、以後法華経の信仰道場として今日に至る。

境内には、長作の名主の中臺武佐衛門が17世紀中頃に寄進したとされる「夫婦梅」の孫木がある。

武石神社

武石三郎胤盛の館跡と推定される高台にある神社。

1940年（昭和15）に君津在住の武石胤興氏および一族会により、昔から地元民に「おたけさま」と呼ばれる祠の近くに建立。

三代王神社

1171年（承安元年）に千葉常胤の三男・武石三郎胤盛がこの地を領有したが、その後1202年（建仁2）に郷中の守護神として「武石明神社」を建立、天種子命を祀る。

1445年（文安2）の馬加康胤夫人の出産慶事にまつわって始まった「三山の七年祭」で、三代王神社は産婆の役割を担う。

1796年（寛政8）に社名を「三代王神社」に改める。

＊三代王：天児屋根命、天押雲命、天種子命

真蔵院

806年（大同元年）に興教大師が開基したと伝える。

1197年（建久8）武石三郎胤盛が、母の菩提を弔うために柳地蔵菩薩を本尊として建立。

境内には、常胤の妻（胤盛の母）を供養するために1294年（永仁2）に建てられたと伝えられる「武蔵型の板碑」のほかに、1259年（正元元年）に長胤により創建された「波きり不動」、青木昆陽の後に甘藷の正しい栽培法を地元伝えた「織田玄琳の妻子の墓」や「羽衣神社」など。

以上

